

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホーム 結ぶ)

事業所番号	0690800404		
法人名	庄内みどり農業協同組合		
事業所名	グループホーム 結ぶ		
所在地	山形県酒田市熊手島字道の下熊興屋17番1		
自己評価作成日	令和 4年 12月 1日	開設年月日	令和 3年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念の「結ぶ」を念頭に、入居者のその人らしい生活が送れるよう、家庭的な環境のなか、自分らしさを活かせる生活を続けて頂けるよう努力しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 4年 12月 20日	評価結果決定日	令和 5年 1月 13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域福祉の拠点として同一敷地内に事業所とデイサービスが併設されています。コロナ感染症対策を強化し、地域の人たちと交流を図りながらグループホームとしての特性を活かし、一人ひとりの思いや意向を大切にして支援しています。利用者が今まで培ってきたことを「記憶」としてとらえて生活歴や個性・価値観を尊重し、敢えて一日のスケジュール等を決めずにそれぞれのペースで自由に過ごしてもらい、職員は利用者の思いを大切にしてその時々々の状況や要望に応じて創意工夫し、利用者本位の支援をしている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフルームに掲示しており、毎月の職員会議で確認と読み合わせを行っている。迷った際の道しるべとして理解している。	理念に基づいて、生活のテーマとして「安心と安全から生まれる笑顔」と「楽しい生きがいから生まれる笑顔」「語り合いから生まれる笑顔」など利用者・家族等にも分かり易く示し、ケアの統一を図っている。管理者と職員は理念を共有し、家族や地域との繋がりを大事にして利用者本位の支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦と言う事もあり、機会は減っているが、自治会には加入しており、参加可能な行事に参加している。散歩に出かけ、地域の方や近くの保育園児との声かけの機会もある。	自治会活動に参加し、地域からも快く受け入れてもらい理解者が増えている。コミュニティセンターでの料理教室やそば振る舞い・花植えなどを通じて地域の一員として交流し、認知症ケアの啓発にも繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	可能な所で行事参加しているが、認知症理解に繋がるような貢献活動は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施し、入居者状況や活動の報告を行っている。運営推進会議の内容については、職員会議にて報告し共有している。	定期的に運営推進会議を開いて活動状況や利用状況等について報告し、コロナ感染症対策なども話し合っている。出席者からは忌憚のない意見や質問などが出て双方向的な会議となり、地域に開かれた事業所として理解されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の介護保険課職員より参加して頂いており、その都度アドバイスを頂いている。また確認したい事がある際にも、メールや電話にて随時確認できる体制にある。	市担当者から運営推進会議に参加してもらい、事業所の実情やケアサービスの取組みについて理解を得ている。利用者への対応やワクチン接種等についての助言と必要な情報をもらって業務に活かし、事業所側の積極的な姿勢と市担当者の誠実な対応により協力関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>職員会議での議題として扱ったり、他法人と併せて研修を行ったりと、正しく理解できるよう努めている。</p> <p>現在日中の玄関施錠は行っていない。</p>	<p>職員全員をメンバーとする身体拘束委員会を立ち上げ、グループホーム会議と一緒に実施している。研修を通じて身体拘束の内容と弊害について周知を図り、常に不適切なケアがないように注意し、安全を確保しながら抑圧感を与えないように支援している。</p>	<p>運営規程の中に身体拘束に関する条文を設けているが「身体拘束等の適正化のための指針」が未整備のため早急に策定されることが望まれる。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員会議での議題として扱ったり、他法人と併せて研修を行ったりと、正しく理解できるよう努めている。</p> <p>日頃より、職員同士、虐待はもとより、言葉使い等振り返っている。</p>	/	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、制度を活用している入居者は居ない。</p> <p>管理者含め制度の理解を深め、今後、必要な制度があれば活用できるようにしていきたい。</p>	/	
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には契約書に沿って内容を説明し、質問があればお答えしてから、納得された状態での契約の締結を行っている。</p> <p>利用料金等の改定に関して、変更等あればお便りなどで説明を行い、理解・納得に努めている。</p>	/	
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者が自分の気持ちを伝えやすい雰囲気作りと関係づくりに努めている。</p> <p>家族については、面会時や電話等で意見、要望があればお答えする様にしている。</p>	<p>日常生活の中でさりげなく意見や要望を聴いたり、家族等からは面会時や通院介助の時などに聴いて適切に対応している。遠方の場合には暮らしの様子を手紙で伝えて意見を伺い業務に反映させている。</p>	
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員からの相談があれば聞くようにしている。</p> <p>日常の申し送りに加え、パソコン上で業務・入居者に関する申し送りも行っている。</p> <p>職員全体で話し合いたい事があれば、職員会議に議題に上げるようにしている。</p>	/	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、職員面談（アンケート、面談）が設けられている。 年間休暇の他、有給休暇、その他の特別休暇の取得。毎月の勤務に関しても、希望休の確認を行い勤務表を作成している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議内で研修を行ったり、他法人と併せて研修を行ったりしている。 職員間で教え合い、学べるように努めている。	年間研修計画に基づいて内部・外部の研修を行い、質の確保と向上に向けて取り組んでいる。オンラインで他県の施設と合同研修を行ったり、管理者の主導で倫理やケアマネジメント・感染症対策・身体拘束など多種にわたって研修を実施し、ケア技術の統一を図っている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他法人と併せて研修をこなう事で、お互いが学ぶだけではなく、交流の機会もなっている。 同JA内での研修や交流もある。 サービスの質の向上に努めている。	上部組織が主催する研修等を通じて交流を深め、事業所間で訪問をしたり職員の交換研修なども計画している。また、オンラインを使って他県の施設と持ち回りで合同研修を行い、職員の育成とサービスの向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前調査を行いアセスメント行っている。本人の話、要望はもちろん、家族やケアマネ、事業所から情報をうかがい、職員が情報共有し安心した生活が行えるように努めている。 入居されてからも、日々の関りにて信頼関係を築いていくよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時に家族から本氏に対する思いや、要望についてうかがい、関係を築けるように努めている。 入居されてからも、家族からの要望等話があれば、職員間で情報共有し、出来る限りの要望に応えられるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査時に、初めからサービス利用を前提として話を進めるのではなく、家族の不安や悩みに傾け、「今」入居する事が本当に望ましいか、他のサービス利用の可能性も併せ見極めるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に、できる事、できない事を見極め、普段の生活を過ごしていただいている。その時々々の思いや、今までの暮らしや経験、習慣を活かせるように活動していただいている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や必要物品の購入等、家族に協力いただける事はお願いしている。 家族のみが知る入居者の話を伺ったり、生活での相談があればその都度行き、共に支える関係性の構築に努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦ではあるが、市の要請等に配慮しながら、出来る限り面会を継続している。 面会の他にも、個別の外出や、電話や手紙で個人の繋がりを継続できるように支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で情報共有し、入居者それぞれの特徴、関係性を把握している。 食席の配慮や、職員が懸け橋となる事で、入居者同士の関りが増え、トラブルなく過ごせるように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所への移動や、入院となった際に関しては、今までの生活での必要な情報の提供等行っているが、入居者、家族との関係の継続には繋がっていない。 必要とされる時はフォローできるように努めたい。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、要望等聞かれた際は可能な限り添えるように努めている。コロナ渦もあり、外出等については難しい事もある。 困難な場合は、普段の生活から、仕草や行動等で、本人の訴えている事は何か感じ取れるように努めている。	コミュニケーションを図り何気ない会話や小さな動作からも利用者の思いや意向を把握している。意思疎通の困難な方には丁寧に働きかけて表情やしぐさを観察し、家族等や関係者からも情報を得て本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査時に生活歴や入居前の暮らし方等、自宅訪問の際は可能であれば自室の環境の確認をさせていただき、家族やケアマネ、事業所から情報収集し、職員間で情報共有できるようにしている。 また、会話の中から本人の情報を聞き出すように努力している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活について記録に残し、職員間で情報共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者担当があり、毎月モニタリングを行っている。また、本人の状況で気になる事がある際は、その都度職員間で相談したり会議の議題に上げたりしている。計画更新時には、本人、家族へ提示、確認してもらっている。	利用者の心身の状態変化と課題を分析し、家族等の意見や要望も組み入れてより適した支援内容を検討している。その人らしさを大切にしてできることを継続してもらい、健康維持と元気に生活してもらえるように目標を定めて作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はタブレット使用し、その都度残すようにしており、情報共有できるようにしている。毎月のモニタリング時に、記録を見直しすることができる。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、回覧を回してもらったり、参加可能な行事に参加させていただいている。コロナ渦もあり、なかなか外部との触れ合いの場が持てないが、恩恵を受けるのみでなく、入居者自身も地域の為となれるように支援できるように努めていきたい。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は家族の協力により受診していただいている。入居中の様子や状態の変化については、事前に医師に連絡を入れたり、文章を用意し、家族の対応時も医師へ伝わるように支援している。	かかりつけ医への受診は家族等の付き添いが殆どで、状況に応じて職員の付き添いも行っている。健康状態や生活の様子などを記載して医師へ提供し、家族等から受診結果を聞いて日報やパソコンでいつでも確認できるようにしている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子は記録に残しており、いつでも看護職員と情報共有できるようにしている。また、入居者について相談があれば、職員間で随時話し、体調管理に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院治療が必要となった場合には、必要とされる情報の提供を行っている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重度化や終末期について施設の考えを説明している。 本人の状況の変化、施設生活での対応の変化を随時報告し、リスクなどもあわせて上で家族と話し合いを行っている。 実際、看取りとなると職員の不安も多く見られている。研修の希望も多く聞かれ、対応が必要。</p>	<p>かかりつけ医の協力のもとで看取りを行えるようにし、重度化に合わせて研修を重ね不安のないようにして職員間の意思統一を図っている。看護師とも連絡を取り、本人・家族等の意向を踏まえて安心して迎えることができるよう取り組んでいる。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアル、フローチャートがあるが、実際の事故発生時に動けるかどうかと不安がある職員が多くいる。 マニュアルの見直しと定期的な研修や訓練が必要。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、火災想定での避難訓練を実施している。昼夜問わずの訓練を実施しているが、自然災害と抱き合わせた物はまだ行うことができていない為、BCPの作成も併せ実施が必要。 運営推進会議メンバーも含め、一緒に訓練を実施したが、実際に発生してしまった場合、どのくらいの協力体制が作れるかはまだ不明である。</p>	<p>年2回の避難訓練の他に市の防災訓練に職員が参加し、避難状況等の報告を行っている。1週間分の食料品の確保やポータブルトイレ等も備え付け、3日間使用できる発電機を設置するなど、災害時の対応を整備し利用者の安心に繋げている。</p>	<p>災害時の避難を最優先にしているが、特に夜間帯において職員1名での対応では早期避難が困難になるものと思われる。運営推進会議の場や地域の総会等において協力体制を築かれるよう期待したい。</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個人の人格を尊重し、人生の先輩として敬意を払いながら声掛けするように心がけている。聞かれない事、見られたくない事を他者に知られないようにプライバシーに留意した声掛け、対応を行っている。</p>	<p>利用者一人ひとりが馴染んできた生活や思いを尊重し、自由に過ごせるようにしている。誕生日に合わせ広告やチラシを見せて、好きなものを選んでもらうなど自己決定をしている。プライバシーや個人情報保護について研修を行い、適切に対応している。</p>		
36		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>無理強いせずに、普段の会話等から意思や希望を確認する様になっている。 声の大きさや説明の仕方に注意し、本氏が自己決定しやすいように努めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務優先になっていないか、理念に立ち戻り考えるようにしている。 おおよその流れはあるが、タイムスケジュール等は無く入居者に都度確認し、本人のペースで過ごせるようにしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等は本人が選んで着ていただいている。出張理容を利用したり、馴染みの理美容へ通われたりとしている。 化粧品等の持ち込みも自由に行っている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は大まかに決まっているが、その日の気分や食べたい物、材料等で変更も自由となっている。入居者の好き嫌いも可能な限りで対応している。食事の準備、片付け等も協力していただいております。習慣化となり自発的に行ってくれる入居者も居る。	献立を作っているが、食材やリクエストに応じてその日のメニューを変更したり、利用者の要望に合わせ提供している。できる方には料理・配膳・片付けなどを手伝ってもらい、行事食や笹巻き作りなど食欲を高め関心を引き起こすための工夫をしている。利用者は食事作りを通して楽しみや食欲にも繋がっている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態、提供量など、個人に合わせて提供している。 ご飯は炊飯器よりご自分で盛っていただいている。水分も好きな物を飲んでいただけるようにと選べるようにしている。ご自分で汲むことも可能にしているが、ご自分で汲んで飲まれる方は少ない。水分の摂取量が少ない方に関しては好みの物を提供したり、ゼリーにして提供したりとしている。 食事、水分の摂取量は日々記録している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛け、誘導にて口腔ケアを行って頂いている。個人に合わせて、見守りや一部介助等行っている。 義歯は1日1回、夜間に洗浄剤にて洗浄行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方、声掛け誘導の必要な方と、個々にあわせて対応している。排泄間隔を確認しながら、前回の排泄時から時間が空いた方には声をかけたり、誘導したりと対応している。	排泄時にはドアの前で見守りをするなど羞恥心にも配慮している。定時にトイレ誘導を行って失敗が少なくなり、おむつの使用は無く、綿パンツやリハビリパンツで過ごせるように支援しており、夜間は歩行に不安のある方にはポータブルトイレを使用してもらい自立排泄に繋がっている。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無について確認をしている。下剤処方になっている方に関しては医師の指示に従って服用していただいているが、普段から水分を摂ってもらったり、野菜を多く使った献立や、乳製品を多く摂ってもらうなど気を付けている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	最低週2回の入浴としている。だいたいの予定は決まっているが、その日の気分が入浴日を変更したりとしている。 拒否が聞かれる入居者もあり、対応職員や時間を変更したりと対応している。	入浴は週2回を目標にして利用者の体調に合わせて調整している。脱衣所や浴室の温度を調節してヒートショック予防に努め、また手摺りや滑り止めマットを設けて事故防止を図っている。同性介助を基本として言葉かけや対応を工夫し利用者は気軽に会話して楽しんでいる。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間は決めず、個々の生活リズムに合わせて生活していただいている。 室温等、快適に過ごせるように配慮している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報は個人ファイルに掲示しており、職員がいつでもだれでも確認できるようにしている。 通院等で内容が変更した場合には申し送りにて情報共有している。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	元々の習慣、経験など、ひとりひとりに合った活動を行えるように努めている。 外出等は難しいが、施設内でも、調理や裁縫、外周の清掃等、得意を活かし活動していただいている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦もあり、外出は難しいが、個別での対応や、散歩の希望が聞かれた際に建物外周など歩いていただいている。 今後も出来る限り希望に添えるように努めていきたい。	日常の散歩は職員の付き添いで行い、季節の花見やドライブに出かけては人混みを避けて車窓から眺めて楽しんでいる。墓参りや通院後の帰宅・買い物・床屋などその時々状況に応じて支援により利用者から喜ばれている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭管理されている方もいる。その方に関しては、契約時に家族にも説明はしている。 その他入居者にも「預り金」として居室の鍵付きの引き出しにて現金を預かっている。必要物品の購入時や、出張理容時、外出時の購入など、本氏に声をかけ使用している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所有されている入居者も居るが、家族から電話があった際は本人へ取り次いでいる。また、入居者から家族へ電話をかけたいと話された際は、家族の仕事時間も考慮し、電話連絡を行っている。 手紙については、郵便局への投函を介助している。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で落ち着いて過ごせる環境を目指している。 季節の花を生けてもらい飾ったりと、季節を感じられるようにしている。 清掃や換気をこまめに行い、外気にも触れられるようにしながらも、過ごしやすいうに温度調節にも気を付けている。	リビングは落ち着いた造りの中にテーブルやソファを配置し、家庭的な雰囲気をかもし出している。エアコン・床暖房を完備し季節の花などを飾り、利用者は思い思いの場所でテレビを見たり、趣味や好きなことをしながらゆったりと過ごしている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他に和室にもテレビ、ソファを設置したり、廊下にも椅子を用意したりと、各々で新聞を読んだり、テレビを見たり、外を眺めたりと、思い思いに過ごせるように工夫することができている。		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの物もあるが、自宅で使っていた馴染みの物を持参していただき使用している方もいる。入居時に家族と配置を決めたりと、ご自分の部屋として安心して過ごしていただけるように配慮している。	備え付け以外は馴染みの生活用品を持ち込み、自由に配置してそれぞれが暮らしやすく設えている。歩行に不安のある方にはベッドに離床型や着床型のセンサーを設置し事故防止を図って、安全安心に暮らせるようにしている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー仕様、手摺の配置、見渡せる作りとなっており、出来る限り自立した生活を送れるようにしている。安全に出来る限り自立した生活を送れるように、配置換えが必要な場合は、職員同士で相談しながら環境作りを行っている。		